

令和2年1月8日

隠岐支庁農林局農政・普及部

標 題 隠岐の島町で隠岐産和牛肉を用いた「ふるさと給食」試食会開催！

(ダイジェスト)

隠岐圏域の和牛繁殖経営では、今後役割を終えた老廃牛が増加することが予想されており、その意義が理解されるマーケットを創出し、隠岐産和牛肉の販売拡大や地元での消費拡大につなげることが今後の課題となっています。そこで、学校給食での活用を検討するため、関係者とともに隠岐産和牛肉を用いたメニューの試食会を開催しました。

隠岐圏域の和牛繁殖経営は主に放牧により行われており、離島の自然豊かな土地で育つ牛は観光客にも隠岐のイメージとして広く定着しています。近年では農外企業や若手畜産農家の参入により繁殖牛の頭数も増加傾向にあり、今後その役割を終えて老廃牛となる頭数も増えることが予想され、その意義を理解してもらえるマーケットの創出が必要となっています。

その方法の1つとして、地域の子供たちに学校給食として老廃牛となる隠岐産和牛肉を提供できないかと提案し、隠岐の島町学校給食センター・地元精肉店・隠岐の島町役場・J A・農林局にて検討を重ねてきました。隠岐の島町学校給食センターは月に1度「ふるさと給食」に取り組んでおり、隠岐産和牛肉をぜひ地元の子供たちに食べさせたいとの意向がありました。そこで、12月12日に関係者を招いた試食会を開催し、隠岐産和牛肉を用いたメニューについて意見交換を行いました。

当日は、隠岐産和牛肉をメインに味わえるメニューとして「牛丼」が試作され、肉の性質・メニュー構成・価格等が検討されました。試食の結果、「意外と脂がしっかりとっていて大変おいしい」「ボリューム感がある」「子供うけが良いのでは」「子供たちが産業に関心を持つ上でも取り組みに意義がある」といった意見が出され、参加者にも好評でした。

この結果を受け、年度内にふるさと給食として牛丼が提供されることとなりました。今後は学校給食での継続的な利用を推進する他、観光と一体となった販売対策についても検討していきます。



使用された隠岐産和牛肉



好評だった牛丼の試食



試食会の様子